

研究機関の資源と研究者をつなぐデータセットとそれを用いたポータルサイトの提案

本アイディアは **Linked Open Data**(以下 **LOD**)として公開して欲しいデータセット、及びそのデータセットを利用したアプリケーションを提案するものである。公開してほしいデータセットは大学法人(以下大学)および研究所のオープンアクセスできる論文や学会での発表資料、大学の講義資料、シラバスとそれを作成した研究者が現在どこの大学、研究所に所属しているのかを一意に知ることができるデータセットである。

データセットを利用したアプリケーションは、集められたデータセットに含まれる日本国内の大学、研究機関の組織間の隔てのない資源を提供する学びのためのポータルサイトを構築することである。近年、大学では **Open Course Ware (OCW)**といった大学の講義資料や講義の録画を一般に公開するものや **Massive Open Online Courses (MOOCs)**といった市民に対して大学に直接通うことがなくても大学の講義を学ぶことができる環境が構築されつつある。しかし、それらは個々の大学でしかすすめられていないため、ブランドのある大学や知名度が高い、いわゆる有名大学の教員の講義の公開されたものが多く視聴される可能性がある。強調したいのは、必ずしも知名度が高い大学の講義が他の大学の講義よりも優れてはいない点である。大学のブランドといった権威にだけによって、市民と市民の学びを支援する資源のマッチングが阻害されることは望ましくない。**LOD**として講義資料やビデオを公開し、本来は論文への指標であるが、**Twitter**や**Facebook**、はてなブックマークといった評価指標の **Altmetrics**などを付与することができれば、多く利用されている、良い講義資料、ビデオへ一般の人たちがアクセスすること可能になる。シラバスを機械可読ができるフォーマットで公開することで各大学のシラバスを比較することや参考資料を見つけることができると考えられる。**LOD**の条件として **URI**を識別子として、大学であればまだ十全ではないが機関リポジトリを用いることで講義資料やビデオに **URI**を付与することが理論上可能であろう。またある程度の研究者であれば文部科学省の科学研究費補助金番号の研究者番号や厚生労働省の研究者データベースで **ID**が付与されているためこれらをリンクさせることができればデータセットは実現できる。

提案するサイトの利用例としては

1. 高校生が学びたい学術領域を当アイディアが提案するポータルサイトで調べ、いくつかのビデオを視聴する。その中で興味をもった教員の名前をクリックすると業績や論文、他の講義資料などの一覧や関係が深い研究者の名前を知ることができる。これによって進学する大学の幅を増やし、柔軟な進路選択が行える。
2. 興味のある分野の資料を横断的に検索でき、それぞれを比較することができること。
3. 大学受験で偏差値が足りないとしても関係が深い研究者が所属する大学を知ることによって大学選びをブランドや偏差値に縛られることを軽減できる。

などを例に挙げることができる。

ブラックボックスと化していた大学や研究機関が内情や学びを個々の機関で公開することだけに限らず、利用者にとって扱いやすく適切な資源を提供することが必要だと感じたため、以上のような提案をします。